

三八地区住民の疾病及び死亡原因に関する調査

佐々木 亮・吉田 稔

(八戸大学人間健康学部)

キーワード：八戸地区，死亡率，三大死因，動向

【緒言】

青森県の三大死因を含む主要死因は全国平均に比べ高い。この現状を踏まえて県では県民健康づくり運動として「健康あおり21」を策定し、活力ある長寿県を目指し、疾病予防のための第一次予防，早世の減少，健康寿命の延伸を目標に，住民主体の健康づくり運動を進めている。八戸市でも平成15年に「健康はちのへ21」計画および「健康なんごう21」計画を策定し，「壮年期死亡の減少」，「健康寿命の延伸」，「生活の質（QOL）の向上」を目的に，生活習慣病の予防を重視した健康づくりを推進している。健康づくりには地域が抱える健康問題に即した対策が求められると同時にその検証が行われている。本調査は三八地区の死亡状況や疾病状況を把握し，将来のこの地域の生活環境の変化が住民の健康にどのような影響をもたらすか明らかにすることである。

【調査方法】

青森県ならび八戸の死亡状況は毎年発行される「国民衛生の動向」，八戸市が発行している「健康はちのへ21」などより情報を得た。

【結果および考察】

八戸市の人口動態統計では，人口増加は横ばい状態であるが，人口構造は55～59歳人口が最も高く，近い将来，老年人口の増加が予想されている。老年人口の増加は医療福祉に対する需要の増大と社会保障財源の圧迫の問題を抱えることになり，より一層の健康年齢の延伸のための対策が求められることとなる。

八戸市の死亡統計では，死因は悪性新生物，脳血管疾患，心疾患，肺炎，自殺の順である。標準化死亡比（SMR）で見るとの特に脳血管疾患，腎不全，糖尿病，肺炎そして自殺による死亡が全国より高値である。ガンのSMRも全国比へ高く，部位別では男子が大腸ガン，女子では大腸ガンや乳房のガンが高いのが特徴である。食生活に関する調査では野菜摂取量は全国・県に比べ低く，緑黄野菜に至っては1日の目標摂取量の1/2である。大腸ガン，胃ガン等の防御因子として野菜の摂取が挙げられている。八戸市における大腸ガンのSMRは低い野菜摂取量が係わっているものと思われる。脳血管疾患のリスクファクターの一つである塩分摂取量は市民の成人1日当たり11.5gで全国平均値と同じであり，高い脳血管疾患のSMRは食塩以外の生活習慣要因が存在することが示唆された。脳血管疾患や心疾患のリスクファクターには高血圧，過度飲酒，ストレスなどがある。飲酒量について，多量飲酒者（3合以上）の割合が最近の調査によれば以前に比べ減少している。ストレスについては，平成19年度の市民アンケート調査では何らかのストレスを感じているヒトが75.2%（男子70.5%，女子77.5%）と報告されている。青森県の平均寿命は男女ともに全国47位であり，全国平均より男子2.5歳，女子0.9歳低い。平均寿命に影響を与える死因の第1位が脳血管疾患である。今後，この地域のライフスタイルを解明し，脳血管疾患や自殺などのSMRの減少に繋がるような対策を行うことが重要であると思われる。

【参考資料】

- ・青森県八戸市，「健康はちのへ21」計画，中間評価，後期計画，平成20年3月
- ・八戸市，「八戸市食育推進計画」・はちのへ食行く行動プラン，平成20年3月